

My City Kawaguchi

マイシティかわぐち



遠藤 夏香 氏 作品《奥ゆきをたぐる》

8/30日まで

ざらざらの実話

アートギャラリー・アトリアで開催。人のなかにある記憶を指に直接とった絵の具で描き出す遠藤夏香氏、リアルさにこだわった立体物で土地の技術を表す木村剛士氏、2人のアーティストがあらひのままに現在進行形の「川口」を表現した作品を展示しました。



木村 剛士 氏 作品《インサイドアウト—工場の臍物》



60年の歴史を終えた旧本庁舎



旧本庁舎の定礎箱の開封を行いました

昭和34年から60年間使用した旧本庁舎の取り壊しが始まり、ロビーの柱に設置していた定礎箱を開封しました。中には工事にかかわったかたがたの名が記された銘板や工事概要、広報紙や硬貨などが納められていて、建設された当時の出来事や思い出を振り返ることができます。

★定礎箱に納められていたものは12月25日(金) (予定)まで第一本庁舎2階で展示しています。





みんなでつくる 川口の元気

vol.69

皆さんこんにちは。

今回は治水対策についてお話しします。

ここ川口市域は、南端を荒川、ほぼ中央を芝川、東端を綾瀬川が流れ、台地と低地から成り立っています。かつて、芝川放水路、いわゆる新芝川が昭和40年に完成する前までは、昭和22年のカスリーン台風や昭和33年の狩野川台風により、芝川が氾濫し、本市も洪水に見舞われていました。

昨年10月の令和元年東日本台風では、カスリーン台風を上回る記録的大雨となりましたが、これまで進めてきた下水道整備や雨水貯留施設、調節池の整備などの治水対策により、人命に関わるような大規模な被害は防ぐことができました。しかしながら、一部の低い土地では、浸水被害が生じてしまったことも事実です。

こうしたことから、私は、直ちに、さらなる水害対策として、柳崎公園と柳根町公園に、地下を活用した雨水貯留施設の設置を指示し、現在整備を進めているところです。この施設はプラスチック製の躯体で出来ており、施工条件にもよりますが、コンクリート製に比べて、コストが約6分の1から3分の1と安く、工期も短縮できるという特徴があります。今後も、こうした雨水貯留施設の整備を引き続き行うとともに、江川第3調節池の整備や、東川口駅周辺浸水対策事業などの治水対策を着実に進めていきます。また、国や県と協力して進めている、荒川第二・第三調節池や、芝川第一調節池（右岸）が完成することで、さらなる治水効果が期待できると考えています。

しかし、どんなに強固な施設を整備しても、先月東川口で発生したような突然のゲリラ豪雨や、予測不能な台風などの自然の前では、油断は禁物です。大雨により危険が迫ったときには、躊躇せず速やかに、ご自身と家族の命を守る行動をとりましょう。

治水対策の推進

川口市長 奥ノ本信夫

▶隙間に雨水が貯まる仕組みのプラスチック製ブロック材



8/19(水)~25(火)

「日本の蝶・世界の蝶」展

日本と世界中から半世紀かけて集められた、約8,000頭の貴重な蝶たちの標本を展示。また、催し会場には、クワガタやヤゴなどを展示した「川口の自然と生きもの」が併設されました。



「日本の蝶・世界の蝶」展



川口の自然と生きもの

8/12(水)~14(金)

川口市平和展

第一本庁舎1階多目的スペースで開催。「未来へ伝える平和の大切さ」をテーマに市の平和への取り組みに関するパネルを展示しました。



市広報番組「ふれあい川口」

J:COM川口・戸田/J:COM埼玉東 9月7日~13日
(月~金曜日12:00~12:30、土・日曜日9:00~9:30)
市ホームページ 9月7日~